



Book Information



LGBT と家族

LGBT とセクシュアル・マイノリティ

昨今、LGBT という言葉がメディアで盛んに取り上げられています。LGBT とはレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの英語の頭文字です。LGBT はセクシュアル・マイノリティと混同されがちですが、イコールではありません。自分の性のあり方を決めていない人や、好きになった人が同性でありながらも同性愛者を自認しない人などは LGBT には含まれませんが、セクシュアル・マイノリティには含まれます。

家族へのカミングアウト

セクシュアル・マイノリティに関する重要な問題として、家族へのカミングアウトが挙げられます。親へのカミングアウトをめぐる、受け入れてもらえないのではないか… という不安を抱える人もいます。現代では異性愛の恋愛や結婚が主流とされています（異性愛主義）。また性別は男女二つであると認識されています（性別二元制）。これらは“当たり前のこと”とみなされがちで

すが、セクシュアル・マイノリティには生きづらさをもたらします。カミングアウトの困難さには異性愛主義や性別二元制が深く関わっているのです。

同性カップルの法的保障

その他の重要な問題として同性カップルの法的保障が挙げられます。現在の日本では同性との法的結婚は認められていません。また、同性カップルには病院での面会や医療上の同意権、公営住宅への入居など、異性愛夫婦と同様には認められていないこともあります。こうした状況を踏まえ、渋谷区は「パートナーシップ証明」の制度を導入しています。パートナーシップに関する制度は全国の自治体に広がりつつありますが、法的拘束力はありません。異性愛の夫婦と同等の権利を保障するためには、同性婚や、法的拘束力のあるパートナーシップ登録制度が必要になるでしょう。

【役立つ 3 冊をご紹介します】

※市内図書館 & すくらむ 21 で読めます & 借りられます。



セクシュアル・マイノリティへの向き合い方を考える
『LGBT を読みとく——キア・スタディーズ入門』

著：森山至貴
出版：ちくま新書、2017 年

性の多様性を扱う研究領域の一つであるキア・スタディーズの議論を噛み砕いて整理した入門書です。メディアにおける LGBT 概念の不適切な使用法や、セクシュアル・マイノリティと経済の関係、同性婚は平等な制度かという論点など、最新の社会情勢・研究動向を踏まえた議論にも触れることができます。



一問一答形式でパートナーシップや結婚について学ぶ
『パートナーシップ・生活と制度
——結婚、事実婚、同性婚 [増補改訂版]』

編著：杉浦郁子、野宮亜紀、大江千束
出版：緑風出版、2016 年

法律婚カップル、事実婚カップル、同性カップルを取り上げ、パートナーシップに関する課題を検討しています。多様なパートナー関係の権利保障の方法として、事実婚、パートナーシップ登録制度、同性婚、個人単位制度などが取り上げられ、個人単位か家族単位かの二者択一を克服することの重要性が示されています。



LGBT かどうかにかかわらず、相手との対等な付き合いを実践できる一冊
『ゲイカップルに萌えたら迷惑ですか？
——聞きたい！けど聞けない！LGBTs のこと』

著：牧村朝子
出版：イースト新書 Q、2016 年

「同性の友人にカミングアウト・告白されたらどうすべきか」など身近な疑問から「腐女子がゲイカップルに萌えたら迷惑か」「異性愛者の友人が一目惚れした彼はゲイ。教えるべきか」など一般の入門書では扱われない複雑な問題まで掘り下げることができます。漫画で LGBT の歴史が学べる点もお勧めです。

「たまごちゃん、たびにでる」
「くまのトーマスはおんなのこ」

「みんなちがって、みんないい」これは金子みすず(1903-1930)の詩(私と小鳥と鈴と)に出てくる一節です。今からおよそ90年も前に、すでに今の世の中のコンセプトである「ダイバーシティ(多様性)」を彷彿とさせる詩を詠んでいます。

例えば誰かに「あなたの家族は？」と聞かれたら、あなたはどのように答えますか。今、家族の形態は様々です。また、最近、LGBTという言葉が頻繁に使われるようになってきました。性自認や性指向が色々あることを受容しようとする世の中になってきています。それでも日本は先進国の中ではまだまだ遅れています...

今回は「みんなちがって、みんないい」を子どもたちに伝える絵本を2冊紹介します。まずはイタリアの絵本『たまごちゃん、たびにでる』です。この絵本は生まれることが心配なたまごちゃんが家族を知るための旅に出ます。色々な家族と出会うことで、生まれることが楽しみになっていきます。様々な動物の家族のありようを楽しく教えてくれます。もう1冊はオーストラリアの絵本で題名は『くまのトーマスはおんなのこ』です。副題として～ジェンダーとゆうじょうについてのやさしいおはなし～と書かれています。男の子が大切にしているぬいぐるみの熊は男の子の名前、でも本当は女の子の名前が良いと打ち明けるところからお話は始まります。男の子の「友情に性別は関係ない」という優しい凛々しさや、お友達の女の子が理系女子であることも楽しいお話です。



著者：フランチェスカ・バルディ/文
フランчесコトゥーリオ・アルタン/絵
ドリアーノ スリス、おおにしよしみ/訳
出版：イタリア会館出版部



著者：ジェシカ・ウォルトン/文
ドゥーガル・マクファーソン/絵
かわむら あさこ/訳
出版：ポット出版プラス

一人ひとり性別も個性も様々ですが、それぞれが自分らしく生きやすい世の中であり、それぞれが互いを尊重しあいながら、協力してともに生きられる世の中であってほしいと願うばかりです。

すくらむ21 7～9月の新入荷書籍

※すくらむ21で読めます&借りられます。

離婚で壊れる子どもたち 心理臨床家からの警告 著者：棚瀬 一代 出版社：光文社	男女共同参画社会データ集 2017 - 2018 出版社：三冬社
わが子に会えない 離婚後に漂流する父親たち 著者：西牟田 靖 出版社：PHP 研究所	LGBTを読みとく——クィア・スタディーズ入門 著者：森山 至貴 出版社：ちくま新書
働き方の男女不平等 理論と実証分析 著者：山口 一男 出版社：日本経済新聞出版社	パートナーシップ・生活と制度 ——結婚、事実婚、同性婚 [増補改訂版] 編著：杉浦郁子、野宮亜紀、大江千束 出版社：緑風出版
男女平等は進化したか 男女共同参画基本計画の策定、 施策の監視から 著者：鹿嶋 敬 出版社：新曜社	ゲイカップルに萌えたら迷惑ですか？ ——聞きたい！けど聞けない！LGBTsのこと 著者：牧村朝子 出版社：イースト新書Q

